

<p>『チェリー・イングラム —日本の桜を救ったイギリス人—』 阿部菜穂子著 岩波書店（479.75）</p> <p>明治以降、日本中に広がった染井吉野の裏で消えそうになった多種多様な桜をイギリスへ持ち帰り守った人がいた。</p>	<p>『桜でいやされるための図鑑』 大貫信彦著 誠文堂新光社（627.73）</p> <p>桜は新しい品種が今も生まれており600品種以上あると言われている。本書では約100品種を見ることができる。</p>	<p>『きみは特別じゃない』 デビッド・マカルー・ジュニア著 大西央士訳 ダイヤモンド社（159.7）</p> <p>YouTubeで100万人以上が視聴した高校生への祝辞。込められたメッセージ「良い人生を送ってほしい」を分かりやすく綴る。</p>	<p>『わたしの好きな街 —独断と偏愛の東京—』 SUUMOタウン編集部/監修 ポプラ社（291.36）</p> <p>同じ東京でも、各街でカラーは異なる。作家やブロガー等が上京等で感じた様子について綴る20のエッセイ集。</p>
<p>『美味しい櫻—食べる桜・見る桜・知る桜—』 平出眞編著 旭屋出版（596.2）</p> <p>食べる桜のルーツや全国各地の桜スイーツ、桜料理のレシピ、桜の名所から桜を読む文学まで桜に関する事柄がわかる。</p>	<p>『桜伝説』 大貫茂著 アーツアンドクラフツ （627.73）</p> <p>桜は比較的長寿であり寿命500年という樹もある。全国各地で咲き誇る名桜と神話や天皇、武将等にまつわる数多くの伝説がわかる。</p>	<p>『岐路の前にいる君たちに— 鷺田清一式辞集—』 鷺田清一著 朝日出版社（377.28）</p> <p>著者が大阪大学と京都芸大で学長職にいた際に卒業式・入学式で「これだけは心に留めて欲しい」と贈った式辞17編。</p>	<p>『わたしはオオカミ —仲間と手をつなぎ、やりたいことをやり、なりたい自分になる—』 アビー・ワンバック著 寺尾まち子訳 海と月社（783.47）</p> <p>女子サッカー元アメリカ代表でありフェミニストの著者から、バーナード大学の卒業生への祝辞。</p>
<p>『桜狂の譜 —江戸の桜画世界—』 今橋理子著 青幻舎（721.025）</p> <p>江戸時代中期の画家三熊思孝とその一派の美しい作品桜画と松平定信の遺した庭、桜画図譜が堪能できる。</p>	<p>『桜よ—「花見の作法」から「木のころ」まで—』 佐野藤右衛門著 小田豊二/聞き書き 集英社（F1サノ）</p> <p>佐野藤右衛門は、桜守。桜を後世に残すため、治療や未発見の桜を探す活動を行っている。</p>	<p>『選んだ理由。』 石井ゆかり著 ミシマ社（F1イシ）</p> <p>人生の岐路である職業の選択。なぜ、その職を選んだのか、現在どう感じるのか。異業種8名へ行ったインタビュー集。</p>	<p>『これは水です—思いやりのある生きかたについて大切な機会に少し考えてみたこと—』 デヴィッド・フォスター・ウォレス著 阿部重夫訳 田畑書店（F2ウオ）</p> <p>リベラルアーツについて学んだ卒業生へ、「当たり前のももの価値にこそ目を向けよう」と贈った祝辞。</p>



3月は旅立ちの季節です。
新たな世界へ飛び込む方々へ贈る本や
成長物語、桜に関する本を集めました。

()内は請求記号です。

多摩市立図書館
2021.3 下旬

別れと出会い・成長の本

<p>『何様』 朝井リョウ著 新潮社 (F1 アサ) 就職後、配属されたのは人事課。克弘は就活を受ける側から運営側となる。『何者』の脇役達の短篇6編だが、これだけでも楽しめる。</p>	<p>『アスリート』 あさのあつこ著 中央公論新社 (F1 アサ) 「ぴたっと嵌まってくる何かが、人には必ず一つはある」と恩師は言った。沙耶は高校で友達に誘われて射撃部に入部する。</p>	<p>『卒業するわたしたち』 加藤千恵著 小学館 (YF1 カト) 家族や恋愛、高校、大学、自動車学校、バンドなど様々な年齢の様々な場面での卒業にまつわる短篇13話。各話冒頭に短歌あり。</p>	<p>『桜の森の満開の下』 『桜の森の満開の下・白痴他十二篇』より 坂口安吾著 岩波書店 (F1 サカ) 昔、満開の桜の下は怖ろしい場所だった。山賊の男が、8人目の女房を攫って始まる怪奇物語。</p>	<p>『夢も定かに』 澤田瞳子著 中央公論新社 (F1 サワ) 奈良時代、聖武天皇の世の後宮へ采女として出仕した18歳の若子。官舎で同室の笠女、春世との3人の成長物語。</p>	<p>『自転車少年記』 竹内真著 新潮社 (YF1 タケ) 早太と昇平は幼馴染。高校では自転車競技部創設、大学では300km走破ラリーと、2人は協力し成長していく。続編は、昇平の息子の物語『自転車冒険記』。</p>
<p>『傲慢と善良』 辻村深月著 朝日新聞出版 (F1 ツシ) 「あいつ」からストーリーされていると訴えていた婚約者が姿を消した。どこに住むか、誰と結婚するか、それを決めるのは誰なのだろうか。</p>	<p>『いま、絶望している君たちへ』 初瀬勇輔著 日本経済新聞出版社 (F1 ハツ) 大学2年時、緑内障で視覚障がい者になった。絶望から救い出してくれたのは、母と柔道と予備校・大学の友達だった。手記。</p>	<p>『廃校先生』 浜口倫太郎著 講談社 (F1 ハマ) 十津川村の谷川小学校は来年の春に3人の卒業生を送り出して閉校する。4人の先生と7人の子どもと村人たちの閉校までの1年間の物語。</p>	<p>『この川のおこうに君がいる』 濱野京子著 理論社 (Y91 ハマ) 震災後梨乃は故郷から埼玉に越した。3.11の被災者と知られずに学生生活を過ごすため、知人のいない高校へ進学し吹奏楽部に入る。</p>	<p>『ポンチョに夜明けの風はらませて』 早見和真著 祥伝社 (F1 ハヤ) 明後日、高校の卒業式でバンドをするのに、岡山から帰って来られないメンバーを、新宿から車で迎えに行く。</p>	<p>『いつまでも白い羽根』 藤岡陽子著 光文社 (F1 フシ) やむなく看護学校へ進学したため、すぐにも辞める気持ちでいたるみ瑠美だったが、良い友に恵まれ、いつしか看護師を目指し始める。</p>
<p>『火桜が根』 藤本ひとみ著 中央公論新社 (F1 フシ) 52歳の女隠居多勢子は、日米修好通商条約を結んだ幕府の振る舞いを知り、政を帝の手に戻すために夫の許しを得て上洛する。</p>	<p>『捨て猫のプリンアラモード』 麻宮ゆり子著 角川春樹事務所 (F1 マミ) 劣悪な集団就職先から逃げてきた郷子を高野バーの人々は救ってくれた。バーで郷子はウェイトレスとして働き始める。</p>	<p>『さよなら鹿ハウス』 丸尾丸一郎著 ポプラ社 (F1 マル) 「劇団鹿」のメンバー7人は、惰性で劇団を続けたいために上京し2年間バイト禁止・パフォーマンスのみで生活費を稼ぐとする共同生活を始める。</p>	<p>『よろこびの歌』 宮下奈都著 実業之日本社 (F1 ミヤ) 声楽を目指すも普通科高校へ進んだ玲。周囲と距離をとって過ごす2年時のクラス合唱を機に成長する。続編は、『終わらない歌』。</p>	<p>『おこう岸』 安田夏菜著 講談社 (Y91 ヤス) 私立中学で落ちこぼれて転入してきた和真は、生活保護家庭で希望を見出せない樹希に出会う。互いに補うことで将来が前向きに進み出す。</p>	<p>『東京近江寮食堂』 渡辺淳子著 光文社 (F1 ワタ) たえこ妙子は10年前に失踪した夫を探しに滋賀から上京。「東京近江寮」で働き始める。「食べることは生きること」と、食を通し人々と繋がる。</p>